二　清涼飲料製造者ヲシテ毎月其ノ前月中ニ於テ製造場ヨリ移出シタル清涼飲料ノ石數ヲ申告セシメ該石數ニ對シテ一石十圓ノ移出稅ヲ課スルコト

三　製造場內ニ於テ消費セラレタル清涼飲料ハ之ヲ製造場外ニ移出シタルモノト看做ス旨特ニ法律ニ規定シ之ニ課稅スルコト

四　第二項ノ稅金ハ移出ノ翌月之ヲ徵收スルコト但シ擔保ヲ徵シテ一定期間(例三ヶ月)ノ延納ヲ許スコト

五　外國ヨリ輸入シタル清涼飲料ニハ保稅地域ヨリ引取ノ際一石十圓ノ引取稅ヲ課スルコト

六　外國ニ輸出シタル清涼飲料ニ對シテハ其ノ稅金竝使用砂糖ノ砂糖消費稅ニ相當スル金額ヲ交付スルコト

七　徵稅ニ關スル取締竝制裁規定ハ大體酒類其ノ他ノ消費稅ニ準スルコト

(參照)課稅ニヨル平年度收入見込額二百二十七萬八千圓

(理由)清涼飲料課稅ノ不可ナル點

(イ)清涼飲料ナル名稱ハ本來其ノ意義明確ナラス從テ之ニ課稅セント欲セハ其ノ範圍ヲ清涼飲料中炭酸瓦斯ヲ含有シ其ノ刺戟ニ依リテ飲用者ヲシテ爽快ヲ感セシムル飲料ニ限定スルノ外

ナカルヘキモ炭酸瓦斯ヲ含有セサル飲料ニシテ之ヲ含有スルモノト殆ト同樣ニ飲用セラルルモノ亦決シテ尠カラス例ヘハ葡萄其ノ他ノ果實ノ汁液又ハ果實蜜等種々アリ依テ其ノ飲用ノ常態ヨリ課稅ノ權衡ヲ圖ラムト欲セハ此等ノモノニ對シテモ課稅セサルヘカラスト雖モ斯クテハ殆ト際限ナク彼ノ玩弄用トシテ販賣セラルル「蜜柑」水ノ如キモノニ對シテモ課稅セサルヘカラサルカ如キ結果トナルヲ以テ寧ロ總テ課稅セサルヲ可トス

(ロ)清涼飲料ニ對スル課稅ヲ當業者ノ申告ヲ標準トシテ行フニ於テハ不誠實ノ申告百出シ其ノ眞相ヲ調査スルコト頗ル困難ナル爲課稅ノ不衡平ヲ免ルルコト能ハサルヘシ

(ハ)夏期ニ於ケル清涼飲料ノ飲用ハ衞生上ヨリ觀ルモ奬勵スヘキコトナルヲ以テ課稅セサルヲ可トス

然レトモ清涼飲料ニ對シテハ左記理由ニ依リ課稅スルヲ相當ト認ム

(イ)清涼飲料ハ一種ノ贅澤品ナルヲ以テ性質上課稅物件トシテ適當ナリ從テ歐米諸國ニ於テモ課稅セルモノ多ク殊ニ我國ニ於テハ近時著シク其ノ消費高ヲ增加シ尙將來漸增ノ趨勢ニ在ルヘキヲ以テ此ノ際相當ノ課稅ヲ爲スヲ可トス

(ロ)現在醬油、砂糖ノ如キ生活上ノ日用品ニスラ課稅セル以上此等ノモノトノ權衡上ヨリ見ル

モ課税スルヲ相當トスルノミナラス清涼飲料ハ往々麥酒ニ代用セラルル場合アルヲ以テ麥酒ニ對スル補充税トシテモ課税ノ必要アリ

(ハ)反對論者ハ清涼飲料ノ課税ヲ當業者ノ申告ニ依リテ行フニ於テハ課税ノ衡平ヲ失フコトトナルカ故ニ不可ナリト謂フト雖モ豫メ製造者ヨリ製造方法ヲ申告セシメ其ノ營業ニ支障ヲ與ヘサル程度ニ於テ原料、製品、製造ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ニ依リテ製造場ニ對シ直接檢査監督ヲ爲スト同時ニ一面原料ノ買入先竝製品ノ販賣先ニツキ間接ノ取締ヲ爲ス等製造場ノ内外ニ渉リ系統的取締ヲ爲スニ於テハ脱税ノ防止ハ必スシモ不可能ナラス從テ甚タ課税ノ衡平ヲ失フカ如キ虞ナシ

(ニ)反對論者ハ課税範圍ノ不明確ニ付キ非難スルモ右ハ含有炭酸量ニ依リ區分スレハ明確ニシテ炭酸瓦斯ヲ含マサルモノヲ除外スルモ何等不權衡ナルコトナシ又夏期ノ飲料トシテ清涼飲料ヲ奬勵スヘシト云フカ如キハ必シモ首肯シ難ク或種ノ又ハ古キ清涼飲料等ニ在リテハ却テ普通飲用水ヨリモ有害ナルコトアリ尚一歩ヲ進メテ言ハハ課税ノ影響トシテ營業上ノ自然淘汰行ハレ業體確實、品質佳良ナルモノ存續シ爲ニ衛生上ヨリ見テ却テ好結果ヲ來スコトアリ得ヘシ

(ホ)清涼飲料ノ製造高ハ逐年增加ノ趨勢ニ在ルヲ以テ課税當時ニ於テハ假令多額ノ收入ヲ期シ

能ハストスルモ漸次其ノ收入額ハ增加スルニ至ルヘク好箇ノ財源タルヲ失ハス

丁　改正セサルモノ

○取引所税

取引所税ハ現行ノ通据置クコト

(理由)取引所税法ニ付テハ最近取引所法ノ改正ニ伴ヒ既ニ相當ナル改正ヲ加ヘラレタルヲ以テ此ノ際更正ヲ加フル必要ナシト認ム

○骨牌税

骨牌税ハ現行ノ儘存置スルコト

(理由)骨牌税ハ其ノ收入額三十萬圓内外ニ過キサルヲ以テ税制整理ノ點ヨリ考フレハ斯カル小額ノ税種ハ國税トシテ存置スルノ價値無キカ如シト雖モ骨牌ニ依ル普通ノ娯樂ハ禁止スヘキ程度ノモノニ非ルモ其ノ使用方法ニ依リテハ社會風敎上忌ムヘキモノニ屬スルノミナラス大體ニ於テ奢侈的物件ト認メラルルヲ以テ之ニ課税スルヲ相當トスヘク其ノ税額ノ僅少ナレハトテ廢税ノ理由ト爲スニ足ラサルモノト認ム

戊　其ノ他新稅トシテ調査シタルモノ

○酢稅課否ニ關スル調査

酢ニ對シテハ課稅セサルコト

（理由）酢ニ對シ左記方法ニ依リ課稅スヘシトノ說ヲ爲ス者アリ

一　酢（食醋、醋酸）ノ製成ヲ終リタル時其ノ造石數ヲ査定シタル上一石ニ付五圓ノ造石稅ヲ課スルコト

二　輸入ニ係ル酢ニ對シテハ一石五圓ノ引取稅ヲ課スルコト

三　造石稅金ハ一定納期ヲ定メテ之ヲ徵收スルコト

四　外國ニ輸出シ又ハ工業用ニ供シタル酢ニ對シテハ其ノ造石稅ヲ下戻スコト

五　徵稅ニ關スル取締等ノ規定ハ大體酒類其ノ他間接稅ニ關スル規定ヲ準用スルコト

酢ニ課稅スルヲ可トスル理由左ノ如シ

一　現在酒類、醬油、砂糖ノ如キ日用品ニ對シ總テ課稅シツツアルヲ以テ均シク調味料タル酢ニ對シテモ適當ノ課稅ヲ爲スヲ相當トス

二　各家庭ニ使用スル酢ノ量ハ極メテ少量ニ過キサルカ故ニ課稅ハ格別消費者ニ苦痛ヲ與フルモノニアラス

三　近來酒精又ハ醪（其ノ實質ハ獨酒ト同一ナリ）ヲ原料トシ酢ヲ製造スル者增加シタルカ此等ノモノニ對シテハ現在ニ於テモ相當取締ヲ爲シツツアルヲ以テ之ニ課稅スルカ爲ニ生スル手數ト經費ノ增加ハ僅少ナリ

然レトモ酢ニ對スル課稅ハ左記理由ニ依リ不可ナリト認ム

一　酢ノ造石高ハ僅ニ三十三萬石ニ過キス而モ其ノ中二萬石ハ輸出又ハ工業用ニ供セラルルヲ以テ此等ニ對シテハ免稅ノ必要アリ而シテ食用三十一萬石ニ對シ一石五圓ノ課稅ヲ爲スモ其收入ハ僅ニ百五十餘萬圓ニ過キサルカ故ニ新稅トシテノ價値ニ乏シ

二　酢ハ其ノ含有酸量ニ多大ノ懸隔アリテ普通ノ食醋ノ如ク四度內外ニ止マルモノト醋酸又ハ酢ノ素ノ如ク十九度以上氷醋酸ニ在リテハ九十度以上ニ上ルモノトアルカ故ニ同一稅率ヲ以テ課スルニ於テハ甚シク負擔ノ不權衡ヲ來スヘク若シ衡平ニ課稅セント欲セハ各酢ノ含有酸量ヲ標準トシテ課稅セサルヘカラスト雖モ斯クテハ食醋ニ對シテ普通醋酸ハ約五倍、酢ノ素ハ七倍、氷醋酸ノ如キニ至リテハ約二十五倍ノ稅率ト爲ササルヘカラスシテ此等ノモノハ甚タ

重税トナルヲ以テ實行困難ナリ

三　酢ノ工業用ニ供セラルルモノハ染色用、顔料用、昆布製造用、藥品其ノ他多岐ニ渉リ而モ其ノ一回ノ使用量極メテ少量ナルカ故ニ之ニ對スル戻税ハ容易ナラサル手數ニシテ多額ノ經費ヲ要ス而モ手數ノ省略上工業用酒精ノ如ク一回ノ使用量一石以上ノモノニ限リ戻税スルコトト爲サンカ工業用酢ハ一回ノ使用量少キカ故ニ殆ト戻税ノ恩典ニ浴シ得サルコトトナルヘク自然工業ノ發達ヲ阻礎スルニ至ルヘシ

（附表）

酢税收入額調

年度別	課税額	税率	税額	徵税費	差引實收額
施行初年度	三〇九、四七五石	一石五円	一、五四七、三七五円	一〇三、六〇三円	一、四四三、七七二円
平年度	〃	〃	〃	一〇一、二二三	一、四四六、一五二

備考

課税高ノ算出基礎左ノ如シ

年次	製造高	輸移入高	輸移出高	工業用	差引課税高	備考
大正八年	三三一、一六二石	—	三、五三八石	?	— 石	
同九年	三二九、〇八九	?	一五、九五〇	一〇、九〇六	—	
平均	三三〇、一二五	九、七四四	一〇、九〇六	三〇九、四七五	課税ニ因ル消費減無キモノト看做ス	

○燐寸消費税課否ニ關スル調査

燐寸ニ對シテハ課税ヲ爲ササルコト

（理由）一　燐寸ハ其ノ製造場數百七十四ケ所ニ過キス而モ内地消費價額ハ六百八十萬圓ニ上ルヲ以テ之ニ對シ相當課税ヲ爲スヘシトスル者アルモ燐寸ハ生活上ノ必需品ナルカ故ニ新ニ課税スルハ妥當ナラサルコト

二　假ニ之ニ對シ從價ノ一割ヲ課スルコトトセハ之カ課税ニ因ル消費減ヲ一割ト見込ミ歲入僅ニ六十一萬圓ニ過キサルコトトナリ又若シ專ラ財政上ノ收入ヲ得ムカ爲ニ從價五割ノ高税率ヲ課スルトセハ其ノ消費減ヲ二割ト見積リ歲入二百七十萬圓ヲ得ヘキモ生活上ノ必需品ニ對シ斯ル苛重ノ税率ニ依リ課税スルカ如キハ戰時其ノ他非常ノ場合ノ外之ヲ避クヘキモノナルコト

三　本邦ノ燐寸ハ全生産額三千五百萬圓ノ内、外國ニ輸出セラルルモノ二千八百萬圓此ノ割合八割强ニ上リ實ニ本邦重要輸出品ノ一タリ而モ内地消費ニ屬スルモノハ價額六百八十萬圓全生産額ノ二割弱ニ過キスシテ若シ内地消費品ノミニ對シ課税ヲ爲スコトトセハ勢ヒ大部分ノ

輸出免稅品ニ對シテモ相當ノ取締ヲ加フルノ必要ヲ生スヘク爲ニ外國市場ニ於テ他國製品トノ競爭激甚ナル斯業ヲシテ自然取引ノ敏活ヲ缺キ輸出貿易ヲ阻害スルニ至ルヘキコト

四　尙燐寸ニ付テハ外國ニ於テ或ハ專賣制度ヲ採用スル所アルヲ理由トシテ之カ專賣ヲ主張スルモノアリト雖モ元來燐寸ハ生活上ノ必需品タルノ關係上財政上ノ收入ヲ目的トシテハ今遽ニ之ヲ實施シ得サルノミナラス强テ之ヲ專賣ト爲サムトスルモ第三項ニ於テ述ヘタルカ如ク年產額ノ約八割以上ハ外國ニ輸出セラルルモノニ係ルヲ以テ商機ヲ尙フヘキ海外貿易ヲ制肘スルコト甚大ナルヘク到底實行不可能ナルヘキコト

（參照）

燐寸製造場數及生產額調

年次	場數	內地消費高	外國輸出高	計
大正七年	六、一九四、三五四	二七、六六七、二六八	三三、八六一、六二二	三九、五八八、六九九
同八年	七、八四九、八三七	三一、七三八、八六二	三一、九八八、〇七五	三五、一四六、一三一
同九年	六、四一三、一一四	二五、五七四、九六一	二八、三二七、〇三〇	
平均	六、八一九、一〇一			

大正十年七月現在　一七九

○其ノ他各種ノ新稅ニ關スル調査

以上調査シタル新稅ノ外尙新財源トシテ一應ノ研究ヲ爲シタルモノヲ列擧スレハ左ノ如シ而シテ右ハ孰レモ各項記載ノ事由ニ依リ國稅トシテハ採用スルノ價値ナキモノト認メ詳細ナル調査ヲ爲スコトヲ見合セタリ

稅目	課稅方法	新ニ課稅スルヲ否トスル理由
一、不動產移轉稅	一、賣買讓渡等ニ因ル不動產ノ移轉ニ對シ課稅スルコト	一、課稅標準トシテハ移轉シタル不動產ノ價格ヲ標準トスルノ外ナキヲ以テ現行登錄稅ト重複課稅ノ嫌アルコト 二、動產ノ移轉ニ對シテハ課稅スルコトナキカ故ニ課稅上ノ權衡ヲ得サルコト 三、本稅ハ既ニ地方稅トシテ主要ノ財源トナリ居ルヲ以テ之ヲ國稅ニ編入スルコトニ付テハ大ニ考慮ヲ要スヘキコト （參照） 大正九年度地方稅トシテ賦課シタルモノ 府縣稅　四百十三萬三千圓 市町村稅　五百三十七萬一千圓 計　九百五十萬四千圓
二、土地增價稅	一、所有權移轉ノ場合ニ於テ讓渡	一、取得價格及讓渡價格ノ調査困難ナルコト

		價格カ取得價格ニ超過スル價額ニ對シ課稅スルコト
三、庭園稅	一、庭園ヲ所有シ又ハ占有スル者ニ課稅スルコト 二、庭園ノ面積ヲ以テ課稅ノ標準トシ等級ヲ設ケテ課稅ヲ爲スコト	
四、壯丁稅	一、非役壯丁ニ對シ課稅スルコト 二、徵兵年齡ニ達シタル翌年ヨリ一定ノ年限之カ課稅ヲ爲スコト	
五、奢侈稅	一、貴金屬、寶石、高等織物、自動車、馬車等ノ物件ノ課稅最低價格及觀覽、宴會等奢侈的行爲ノ課稅最低金額ヲ設ケテ之レニ超ユルモノニ課稅スルコト	

二、本稅ノ適用ヲ受クルハ事實上市街地及其ノ附近ノ土地ニ限ラルルカ故ニ地方稅ノ財源トシテハ可ナルヘキモ國家ノ一般的財源トシテハ不適當ナルコト

一、庭園トシテ課稅スヘキ範圍ヲ定ムルコト困難ナルコト

二、地方ニ依リ相當ノ等級ヲ設ケテ課稅スルノ要アルモ之カ標準ヲ定ムルコト至難ナルコト

一、兵役ニ服セサル者ハ納稅ニ依リ兵役義務ヲ盡シタリトノ思想ヲ生シ國民皆兵主義ノ美風ヲ破壞スルニ至ルヘキコト

二、兵役義務ハ任意ニ之ヲ免ルヘキモノニアラサルヲ以テ國家カ免役者ニ對シ課稅ヲ爲スハ不當ナルコト

三、若シ課稅スルト爲スモ負擔力ノ如何ニ依リ課稅ヲ斟酌スルコト困難ナレハ勢ヒ人頭稅トナルノ嫌アルコト

（參照）

毎年ノ徵兵適齡者數約五十二萬人ノ內課稅ヲ受クヘキ人員ヲ其ノ七割ト見込ミ一ケ年三十六萬四千人トナル

一、立法上課稅品目ヲ選定スルコト容易ナラサルノミナラス其ノ用途形狀等ニ依リ甚シク價格ヲ異ニスルモノアリ從テ課稅最低價格ヲ決定スルコト至難ナルコト

二、奢侈品又ハ奢侈行爲ノ總テヲ網羅スルコト至難ニシテ爲ニ課稅ノ公平ヲ期シ難キコト

三、美術品ノ大部分ニ課稅スルノ結果トナリ爲ニ美術工藝ノ發達ヲ阻碍スルコト

四、脫稅ノ機會多ク其ノ取締頗ル困難ナルコト

五、課稅方法ハ現金納付又ハ印紙納付ノ何レニ依ルトスルモ簡易確實ニ徵稅ヲ爲シ得サル爲甚シク取引ヲ阻碍スヘシ

六、本稅ニ付テハ戰時中外國ニ於テ之ヲ採用セシ向アリシモ其ノ後漸次廢止セラルルノ傾向アルノミナラス徵稅上種々ノ缺點アルヲ以テ非常ノ場合ノ外平時ニ於テ之ヲ採用スルノ價値ナキコト

一、娛樂興行ト學術講演等トノ分界ヲ立ツルコト困難ニシテ課稅範圍明確ナラサルコト

二、正確ナル徵稅ヲ爲スコト頗ル困難ナルノミナラス各種ノ興行ハ簡單ナル設備ヲ以テ隨所ニ行ハルルカ故ニ之ニ對シ公平ナル課稅ヲ爲スハ至難ナルコト

三、本稅ハ地方ノ狀況ニ依リ地方稅トシテ適當ナル課稅ヲ爲サシムルヲ相當トスルコト

一、紙ハ主トシテ新聞、書籍等文化ノ發達ニ關係スル所至大ナルヲ以テ之ニ課稅スルハ些少ノ收入ノ爲ニ却テ國家ノ大局ニ不利ヲ招クノ虞アルコト

六、娛樂稅	一、娛樂興行ニ對シ等級ヲ設ケ課稅スルコト	
七、紙消費稅	一、內地消費ニ係ル紙ノ價額ヲ標準トシテ課稅スルコト	

八、茶消費税

一、内地消費ニ係ル茶ノ價額ヲ標準トシテ課税スルコト

二、紙ノ種類ハ頗ル多ク從テ價格ニ懸隔アルカ故ニ之ニ對シ公平ナル課税ヲ爲スハ困難ナルコト

三、紙ノ製造者ハ全國ヲ通シ約四萬五千人ニ上リ其ノ徵税取締ハ頗ル困難ニシテ多額ノ徵税費ヲ要スヘキコト

（參照）

大正八年分農商務統計書等ニ依ル紙ノ製造高等左ノ如シ

内地生産價額	内 輸出高	輸入高	差引 内地消費高
一九二、二八八千円	二五、三九七千円	二九、七六〇千円	一九六、六五一千円

一、茶ハ玉露以下番茶ニ至ル迄品質ノ差異甚シク價格ノ高低亦大ナルモノアルヲ以テ之ニ對シ公平ナル課税率ヲ設クルコト困難ナルコト

二、茶ノ一部ハ贅澤品ニ屬スヘキモ番茶ノ如キハ寧ロ生活ノ必需品ニ屬シ之ニ課税スルハ不可ナルコト

三、茶ハ主トシテ農家ノ副業トシテ製造セラレ其ノ約六割ハ外國輸出品タルニ因リ課税ノ爲ニ自ラ輸出貿易ヲ阻碍スルノ虞アルコト

（參照）

大正八年分農商務統計書等ニ依ル茶ノ製造高等左ノ如シ

内地生産價額	内 輸出高	輸入高	差引 内地消費高
三三、三七七千円	一八、四〇二千円	一九四千円	一五、一六九千円

第三編

地方税整理案

目次

第一　道府縣稅……二〇四
甲　從來ノ戸數割及之ニ代ル家屋稅ヲ廢シ賃貸價格ヲ標準トシテ課スル定率稅ノ家屋稅ヲ新設スルコト……二〇四
乙　市町村ノ所得稅附加稅ヲ府縣ニ委讓シ府縣ノ所得稅附加稅率ヲ現在ノ制限率ニ市町村ノ附加稅制限率ヲ加ヘタルモノマテ引上クルコト……二〇六
丙　府縣稅營業稅雜種稅ヲ整理スルコト……二〇七
丁　鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ府縣稅營業稅ヲ課スルコト……二〇八
戊　整理ノ結果ニ因ル稅額ノ增減……二〇八
第二　市町村稅……二一一
甲　地租及營業稅ノ附加稅率ヲ高メ且家屋稅附加稅ヲ新設スルコト……二一一
乙　鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ヲ認ムルコト……二一一

丙　從來ノ戸數割附加稅及之ニ代ル家屋稅附加稅ヲ廢シ主トシテ所得ヲ課稅標準トスル戸數割ヲ市町村ニ設ケ現在ノ家屋稅施行地ニモ施行スルコト……二一二
丁　戸數割ノ負擔ヲ輕減スルコト……二一三
戊　整理ノ結果ニ因ル稅額ノ增減……二一三

我國現時ノ地方稅體系ハ國稅ニ對スル附加稅ト國稅ノ遺ス所ノ稅源ニ對スル特別稅ヲ以テ組成セリ而シテ其國稅附加稅ハ嚴重ナル制限ニ局促セラレ其特別稅亦大ナル財源タル能ハス然ルニ輓近地方歲出劇增シタルカ爲之カ財源ノ涸渴ニ苦シミ勢ヒ現行戸數割ノ如キ比較的良稅タラサルモノニ偏重シ又ハ或種ノ營業稅雜種稅ノ如キ零細ナル稅種ヲ涉獵シテ其ノ財源ニ充足シツヽアリ此ノ如クニシテ地方稅ハ全ク歲入ノ不足ニ伴ヒ或ハ增額或ハ濫設セラレ雜然トシテ其間何等脈絡系統ナク之カ整理改善ハ地方財政ノ窘窮ニ隨ヒ益〻其ノ緊要ナルモノアリ

抑〻地方稅制ノ體系ヲ確立スルニ當リ之カ大宗タル稅種ハ應能主義ニ適合シ而カモ應益主義ヲ加味シ得ル租稅ヲ以テスルヲ至當トス故ニ道府縣ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ヲ中軸トシテ之ニ配スルニ所得稅附加稅ヲ以テシ且適當ナル雜種稅ヲ認ムルコトト爲スヘク市町村ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ノ附加稅ヲ中樞トシテ之ニ配スルニ戸數割ヲ以テシ尙地方ノ事情ニ應シテ特別稅ヲ設ケシムルヲ可トス而シテ此ノ如キ地方稅ノ體系ハ他日國ノ財產稅完成シ地租及營業稅ヲ全ク地方ニ委讓シタル場合ニ於テ完備セシムルコトトシ此ノ經過的時期ニ於テハ根本主義ニ順應スル方針ヲ以テ地方稅ノ整理ヲ行フヲ適當ナリト信ス故ニ此際地租及營業稅カ財產稅ノ新設ニ依リ輕減セラレタル分ハ之ヲ地方財源ニ委讓シ是ニ依リテ生スル餘裕ヲ以テ如上ノ根本方針ニ從ヒ地方稅中當

ニ廢減スヘキ稅種ノ整理ニ充ツルヲ可ナリト認ム

國ニ一般財產稅ヲ起シ國稅トシテ輕減シタル地租及營業稅ヲ更ニ地方稅トシテ徵收スレハ財產稅ヲ納ムル者ノ土地及營業ハ負擔加重セラルルコトトナルヘシト雖モ現行地方稅中ニハ整理ノ急ヲ要スルモノ尠カラサルヲ以テ此際土地及營業ノ負擔ノ加重ハ姑ク之ヲ忍ヒ以テ地方稅ノ整理ヲ斷行スルヲ可トス

上述ノ方針ノ下ニ以下各項ノ如ク地方稅整理ヲ行ハントス

第一　道府縣稅

甲　從來ノ戶數割及之ニ代ル家屋稅ヲ廢シ賃貸價格ヲ標準トシテ課スル定率稅ノ家屋稅ヲ新設スルコト

(理由)現行戶數割ハ府縣ニ於テ直接個人ニ賦課セス一先之ヲ市町村ニ配賦シ各個ノ賦課額ハ市町村會ノ決議ニ一任ス

元來地方稅トシテ各人ノ所得ニ對シテハ所得稅附加稅アリ土地ニ對シテハ地租附加稅及段別割アリ營業ニ對シテハ營業稅附加稅、府縣稅營業稅及雜種稅アリ其他各種ノ物件行爲收入等

ニ對シテモ課稅シ稅網廣ク各般ニ行渡レルニ拘ラス猶且戶數割ノ存スル所以ノモノハ蓋シ其ノ初メ地方團體カ各種ノ稅源ニ其ノ收入ヲ求メテ尙足ラサル場合ニ於テ各人ハ齊シク其ノ分ニ應シ自治體ニ對シ出捐スルコト當然ナリト云フ觀念ニ基クナルヘシ故ニ戶數割ハ人ノ生活狀態等ヲ斟酌シテ其ノ資力ヲ測リ之ニ應シ賦課スルヲ以テ本則トス然ルニ此ノ如キハ府縣ノ如キ區域ノ廣キ管內ヲ通シテ公平ニ行ハレ難キハ勿論ナルヲ以テ直接課稅ノ方法ニ依ルコト能ハス勢ヒ二段課稅ノ方法ヲ採ルノ外ナシ而シテ之ヲ單ニ戶數ニ應シ各市町村ニ配賦スルハ固ヨリ不公平ナルヘク去リトテ市町村ヨリ各個人ノ資力算定ノ資料ヲ調査申告セシムルコトトセハ各市町村競フテ課稅標準又ハ其ノ資料ヲ內輪ニ見積リテ申告シ到底配賦公平ナルヲ得ス又市町村ノ貧富ニ應シ之ニ等級ヲ附スル如キモ理論上及實際上不適當ナリ若シ又郡費分賦ノ例ニ倣ヒ各市町村ノ直接國府縣稅賦課額ヲ戶數ト合セテ標準ト爲シ戶數割ヲ配賦スルモ貧富ノ懸隔アル市町村ノ資力ニ適應スル配賦ヲ行フコト殆ト不可能ナリトス從テ此ノ如キ配賦ヲ基礎トシタル戶數割ハ結局府縣內各人ノ資力ニ應シタル課稅タルコト能ハサルナリ

此ノ如ク本質上府縣稅トシテ負擔ノ公平ヲ期シ得ラレサル稅ハ之ヲ廢止シテ寧ロ市町村稅ト爲

シ市町村ヲシテ其ノ住民ノ生活狀態等ヲ斟酌シ能ク其ノ資力ニ應シテ課稅セシムルコトト爲スヲ適當ナリト認ム

尙戶數割ヲ廢止スルモノトセハ從來戶數割ニ代ヘテ一部ノ地方ニ課セラレタル家屋稅モ亦其儘存置スヘキモノニ非サルヘシ

然レトモ土地及營業ハ地方稅ヲ課セラルルニ拘ラス獨リ家屋ニ對シ未タ廣ク一般ニ課稅セラルルコトナキハ彼此均衡ヲ失セルモノト云ハサルヘカラス故ニ從來ノ家屋稅ノ如ク戶數割ニ代ヘテ課スルモノハ之ヲ廢スルモ新ニ定率稅トシテ家屋稅ヲ設クルヲ適當ナリト認ム農村ノ實情ハ家屋稅ノ課稅標準ノ査定困難ナルモノアランモ國ニ於テ一般財産稅ヲ施行セハ之カ調査ト相俟テ其困難ヲ排除シ得ヘキナリ

乙　市町村ノ所得稅附加稅ヲ府縣ニ委讓シ府縣ノ所得稅附加稅率ヲ現在ノ制限率ニ市町村ノ附加稅制限率ヲ加ヘタルモノマテ引上クルコト

(理由)戶數割ハ府縣稅トシテ已ニ之ヲ廢シ土地家屋營業ニ對スル課稅ヲ其中軸トシ之ニ配スルニ所得稅附加稅ヲ以テスルコトト爲スモ現府在縣ノ所得稅附加稅ハ其率頗ル低キヲ以テ府縣稅ニ於ケル物稅ニ對スル人稅ノ割合均衡ヲ得ス然ルニ一方ニ於テ市町村ハ人稅タル戶數割附

加稅ノ巨額ニ達セルニ加ヘテ所得稅附加稅ヲ課スルヲ以テ人稅ノ物稅ニ對スル割合過大ニ失セル嫌アルカ故ニ市町村ノ所得稅附加稅ヲ廢シテ其ノ人稅ノ割合ヲ低下シ他ノ一方ニ於テ府縣ノ所得稅附加稅ノ率ヲ現在ノ附加稅率ト市町村ノ附加稅率トヲ加ヘタル程度迄高メテ戶數割廢止ニ依ル人稅ノ減少ヲ補フヲ可トス此ノ如クセハ亦以テ府縣稅制ニ一層伸縮性ヲ帶ハシムルヲ得ヘキナリ

丙　府縣稅營業稅雜種稅ヲ整理スルコト

(理由)元來府縣ノ營業稅ハ國稅トシテ之ヲ課スルニハ餘リニ小營業ナリトシテ遺棄シタルモノニ課スルモノナルカ故ニ能フヘクンハ其ノ總テヲ廢スルコト社會政策上ヨリ觀ルモ亦至當ナルヘシ少クトモ其中比較的大ナル營業者ニ對スル課稅ヲ除キ職工稅其他細民ニ課スル稅ノ如キハ之ヲ廢スルヲ當然ノコトナリト信ス(其ノ廢止見込ノモノ別表ノ通)又雜種稅ハ營業稅的性質ヲ有スルモノアリ物件行爲等ニ課スルモノアリテ多種多樣ニ亙リ中ニハ演劇興行稅ノ如キ自動車稅ノ如キ適當ナル稅種ナキニ非スト雖又細民ニ苦痛ヲ與フルモノモ少ナカラス此ノ如キ反社會政策的稅種ハ之ヲ廢止スルト共ニ雜然タル稅制ヲ整理シテ秩序アルモノタラシメサルヘカラス(其ノ廢止見込ノモノ別表ノ通)

尚營業稅雜種稅中勞働者又ハ主トシテ細民ニ課スルカ如キモノハ之ヲ廢止スル趣旨ヲ以テ營業稅雜種稅ノ稅目ヲ限定シ又雜種稅中其ノ稅質營業稅ナルモノハ之ヲ營業稅ニ組替フルヲ可トス

丁　鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ府縣稅營業稅ヲ課スルコト

（理由）鑛業稅ハ鑛產稅ト鑛區稅トニ分タル鑛區稅カ特許ニ對スル報償金ノ性質ヲ有スルハ論ナカルヘク鑛產稅モ亦半ハ同性質ヲ有スルヲ爭ハス然レトモ又同時ニ其半ハ營業稅的性質ヲ帶ヘルモノト認メサルヲ得ス故ニ鑛區稅ト鑛產稅ノ半トハ之ヲ國稅トシテ存シ其營業稅的性質ヲ帶ヘル他ノ半ハ國稅營業稅ヲ地方ニ委讓シタルカ如ク之ヲ地方ニ委讓スルヲ相當ナリト認ム既ニ報償金ノ性質ヲ帶フル部分ノミヲ鑛業稅トシテ國稅ニ留保シタル以上ハ地方ニ於テ之ニ附加稅ヲ課スルヨリモ鑛業ノ營業タル事實ニ對シ府縣稅トシテ營業稅ヲ設置スルヲ至當トス而シテ其ノ稅額ハ之ヲ現在府縣ノ鑛業稅附加稅額ノ範圍ニ止メ鑛業稅ノ地方ニ委讓セラレタル部分ハ之ヲ國稅營業稅同樣市町村ニ與フルヲ可トス

戊　砂鑛區稅附加稅モ亦鑛區稅附加稅ニ準シテ整理スルヲ可トス

以上ノ趣意ヲ以テ道府縣稅ヲ整理セハ道府縣ニ於テ失フ稅額左ノ如シ

（大正十年度當初豫算）

戸數割廢止ノ爲	三九、二五一、一六八圓
家屋稅廢止ノ爲	七、七三三、七九三圓
營業稅整理ノ爲	一、四六一、六八四圓
雜種稅整理ノ爲	五六四、六一六圓
猶家屋稅ヲ新設セハ私法人建物稅ハ家屋稅中ニ包含セラルルコトトナルヲ以テ雜種稅トシテハ廢止セラル而シテ其ノ額	一、五四〇、九〇五圓
計	五〇、五五二、一六六圓

註　廢止セラルル鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅額ト鑛業及砂鑛業ニ對スル新設ノ營業稅額トハ相等シカラシムルコトヽ爲セルヲ以テ府縣稅整理ノ計算上ヨリ之ヲ除ク

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ先ツ之ヲ道府縣ノ所得稅附加稅率ノ引上ケニ依ル增收額三五、五五九、三八二圓ヲ以テ之ニ充テ次ニ其殘額一四、九九二、七八四圓ハ之ヲ新設スヘキ家屋稅ヲ以テ充テントス卽家屋稅ハ建物賃貸價格八九一、七二九、九五四圓ノ百分ノ一、六八一三ノ稅率トナルヘシ但各府

縣ニ就キテ見レハ整理セントスル府縣稅額ト所得稅附加稅ノ增收額トノ差額ニ大小アルノミナラス課稅標準タルヘキ建物ノ賃貸價格ニモ亦相異アルヲ以テ從テ家屋稅ノ稅率ハ府縣ニヨリ同シカラサルコト勿論ナリトス

右整理ノ結果道府縣ノ重ナル稅ノ收入額左ノ如シ

地租附加稅	七三、五六二、四九〇		
家屋稅	一四、九九二、七八四		
營業稅附加稅	一六、七四二、〇八九	一一四、六五二、八〇九圓	
營業稅	九、三五五、四四六		
所得稅附加稅		三九、二三五、四一一圓	
雜種稅		三二、三三七、八〇六圓	

（註）右計數ノ內容ハ後ニ添付セル計算書參照ノコト

而シテ道府縣ハ其稅制ヲ整理スルニ當リ地方ニ委讓セラレタル地租及營業稅ニ依ルコトナクシテ能ク其ノ目的ヲ達シ得ルカ故ニ其ノ委讓ヲ受クヘキ兩國稅額ハ之ヲ市町村ノ整理財源ニ充ツルコトヲ得

第二　市町村稅

甲　地租及營業稅ノ附加稅率ヲ高メ且家屋稅附加稅ヲ新設スルコト

（理由）前述ノ如ク地租及營業稅ノ委讓額ハ道府縣ニ於テ其稅制整理ニ充テサルヲ以テ市町村ハ之ヲ收メテ地租及營業稅ノ現行附加稅率ヲ高ムルコトトス猶又市町村ニ於テ地租及營業稅ノ附加稅ヲ賦課スル以上ハ之ト權衡ヲ保ツカ爲メ道府縣ニ新設スヘキ家屋稅ニ附加稅ヲ設クルヲ至當トス其稅率ハ府縣稅ノ百分ノ五十ヲ以テ相當ト認ム

此ノ如クニシテ此三附加稅ヲ整ヘ以テ市町村稅體系ノ中軸タルヘキ素地ヲ作リ以テ他日國ニ於テ一般財產稅完成シ地租及營業稅ノ全部ヲ地方ニ委讓セラルル際ニ於ケル市町村稅體系ノ完備ニ一歩ヲ進ムルヲ要ス

乙　鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ヲ認ムルコト

（理由）國稅ニ存置シタル鑛業稅ニ附加稅ヲ課スルノ適當ナラサルコト府縣稅ニ付述ヘタルカ如シ仍テ市町村ノ鑛業稅附加稅モ亦之ヲ廢シ新ニ設ケタル鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ニ附加稅

ヲ課スルコトトス而シテ今其ノ率ヲ幾何ナラシムヘキカヲ考フルニ鑛業地ノ市町村ハ鑛業ノ發展ニ伴ヒ多數ノ坑夫來住シテ漸次義務教育費衛生費等著シク增大シ其財政窮迫ノ狀態ニ在ルヲ以テ鑛業營業稅ノ附加稅ノ程度ハ現在市町村カ鑛業稅附加稅トシテ徵收セルモノニ加フルニ國稅鑛業稅ニ於テ輕減シタル稅額ノ範圍マテ擴張シ以テ市町村財政ノ緩和ヲ圖ルニ資セントス

砂鑛區稅附加稅モ亦之ヲ廢シ砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ト爲スヘキコト勿論トス

丙　從來ノ戶數割附加稅及之ニ代ル家屋稅ノ附加稅ヲ廢シ主トシテ所得ヲ課稅標準トスル戶數割ヲ市町村ニ設ケ現在ノ家屋稅施行地ニモ施行スルコト

(理由)戶數割ハ資力ニ對シ之ヲ課スルヲ可トスルモノナルヲ以テ府縣ノ如キ廣キ區域ニ施行スルニ適セサルコト前ニ述ヘタルカ如シト雖之ニ多少ノ修補ヲ加ヘテ之ヲ市町村區稅トセハ其ノ施行區域モ狹小ナルカ故ニ能ク各人ノ資力ヲ周密ニ調査シテ課稅シ得ヘシ故ニ之ヲ市町村稅トシ所得ヲ主タル課稅標準トシテ課スルモノトシ以テ地租家屋稅及營業稅ノ附加稅ニ配スルハ市町村稅體系上適當ナリト信ス

(註)　從來市町村ニシテ戶數割附加稅ニ代ヘ家屋稅附加稅ヲ賦課シ來リタルモノニ在リテハ之ヲ廢シテ戶數割ヲ賦課スルコトト爲スモ尙新設スヘキ府縣稅ノ家屋稅附加稅ヲ課スルコトハ已ニ述ヘタルカ如シ

丁　戶數割ノ負擔ヲ輕減スルコト

(理由)地租及營業稅附加稅ノ增率ニ依ル增收額及新設スヘキ家屋稅附加稅額ハ之ヲ市町村ノ新財源トシ先ツ以テ市町村ノ所得稅附加稅ヲ道府縣ヘ移シタル財源ノ缺陷補塡竝道府縣稅營業稅、雜種稅ノ整理稅目ニ對スル附加稅ノ減收補塡ニ充テサルヘカラス

而シテ次ニ之カ處理如何ヲ考フルニ市町村ノ戶數割ヲ輕減スルヲ相當ナリト信ス蓋シ現時市町村ノ戶數割附加稅ハ一億七千九百萬圓ノ巨額ニ達シ市ヲ除キ町村ノミニ付テ之ヲ見レハ租稅收入ノ七割三分ヲ占ムルノ狀態ナルカ故ニ如何ニ戶數割ヲ良稅ニ改ムルモ町村稅ノ大部分ヲ戶數割ニ求メントスルカ如キハ各人ノ擔稅力ニ應スル所以ニアラサルノミナラス將來市町村稅ノ體系ヲ整フル上ニモ必ス其ノ輕減ヲ計ラサルヘカラス

戊　以上整理ノ結果市町村ノ重ナル租稅收入額左ノ如シ

地租附加稅	五五、九五九、八二〇
家屋稅附加稅	七、四九六、三九二
	一一三、二五八、〇〇八圓

國稅營業稅附加稅　四一、〇一四、二二八
府縣稅營業稅附加稅　八、七八七、五六八
戶數割　一五三、〇八四、五〇八圓
雜種稅附加稅　一七、三二〇、八二八圓
特別稅　一九、六六二、六九三圓

以上ノ如ク道府縣ハ其ノ新設シ又ハ增率シタル稅ニ依ル財源ヲ以テ其ノ整理ヲ行ヒ市町村ハ地租及營業稅ノ委讓額ヲ以テ主トシテ戶數割ノ輕減ヲ計リ他日國ニ於テ財產稅完成シタル時ヲ俟テ戶數割ノ稅額ヲ地租家屋稅營業稅附加稅ノ稅額ト同額以下タラシメ以テ其ノ租稅體系ノ整備ヲ期スヘキモノトス

（參照）（大正十年度豫算）

道府縣稅營業稅中廢止見込課目

露店ニ對スル營業稅　四八、七五八圓

（福岡縣ニ於ケル露店稅ノ物品販賣業稅ニ對スル割合二分三厘五毛ナルヨリ推算）

職工　一、一五七、二七九圓

商行　一三五、四三六圓
炭燒業　六一、四三六圓
紙漉業　九、四六五圓
木賃宿業　九、七八九圓
賃機織業　二〇、四六四圓
賣藥請賣業　六、五一五圓
賣藥行商業　五、六七七圓
賃撚糸業　四、三九九圓
繰糸業　七五七圓
蹄鐵工業　六七六圓
牛馬宿業　六三〇圓
仲仕業　二六四圓
渡船業　五〇圓
塗物業　三三圓

修繕業	二一圓
日雇業	一四圓
飛脚業	一〇圓
手傳業	六圓
柚業	五圓
計	一、四六一、六八四圓

雜種稅中廢止見込課目

牛馬	五〇七、二六七圓
運送夫業	三二、八〇一圓
賃取牛馬	八、八五九圓
仲仕	五、四二五圓
荷積車前輓牛馬	四、三八四圓
筏乘	二、六五二圓
竹木流下業	一、五七〇圓

船乘	九六四圓
賃駕籠	三〇九圓
覗眼鏡	一八二圓
易占	一〇五圓
死畜取扱人	七九圓
屠手	一九圓
計	五六四、六一六圓

本整理案ニ基ク計算內容卽左ノ如シ

(イ)道府縣稅ノ增減

道府縣ニ於テ失フ稅額	
戶數割廢止額	三九、二五一、一六八圓
家屋稅廢止額	七、七三三、七九三圓
營業稅整理額	一、四六一、六八四圓
雜種稅整理額	二、一〇五、五二一圓

計　五〇、五五二、一六六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ道府縣ノ所得税附加税率引上ニ依ル增收額三五、五五九、三八二圓ヲ以テ之ヲ補充シ不足額一四、九九二、七八四圓ハ新設家屋税ノ賦課ニ依リ之ヲ補塡ス

右整理ノ結果道府縣税收入ノ狀況左ノ如シ

地租附加税（現在通）		七三、五六二、四九〇圓
家屋税（新設）		一四、九九二、七八四
營業税附加税	現在額	一六、七三三、七九一
	賣藥營業税附加税編入額	八、二九八
		一六、七四二、〇八九
營業税	現在額	九、四一九、〇六四
	新設鑛業營業税額	六七四、四二四
	雜種税ヨリ編入額	七二三、六四二
	整理輕減額	一、四六一、六八四
		九、三五五、四四六
		一一四、六五二、八〇九圓
所得税附加税	現在額	三、六七六、〇二九
	增徵額	三五、五五九、三八二
		三九、二三五、四一一圓

雜種税	現在額	三五、一六六、九六九
	整理輕減額	二、一〇五、五二一
	營業税ヘ編入額	七二三、六四二
		三一、三三七、八〇六圓

（ロ）市町村税ノ增減

市町村税ニ於テ失フ税額　二七、六一五、三三九圓

一、所得税附加税ノ委讓額　二、六五〇、一八七圓

一、營業税雜種税附加税ノ減收額　三〇、一六五、五二六圓

計

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ新設セル府縣家屋税ノ附加税七、四九六、三九二圓ヲ以テ之ヲ補充ス其殘額二二、七六九、一三四圓ヲ地租、營業税及鑛業税ノ委讓額六四、六六七、〇〇〇圓（内地租三二、九九四、九一五／營業税二八、七七六、〇八五／鑛業税二八、九九六、〇〇〇）ヲ以テ補充スレハ其委讓額中四一、八九七、八六六圓ノ殘餘ヲ生ス此殘餘額ハ之ヲ戸數割ノ輕減ニ充ツ

右ノ結果ニ依ル市町村税收入ノ狀況左ノ如シ

地租附加税	現在額	二二、九六四、九〇五圓
	委讓額	三二、九九四、九一五
		五五、九五九、八二〇圓

家屋税附加税（新設）

現在額　一二、二二四、〇四〇

委譲額　二八、七七六、〇八五

賣藥營業税附加税編入額　一四、一〇三

國税營業税附加税　四一、〇一四、一二八

現在額　五、九七九、一三九

鑛業税委譲額　二、八九六、〇〇〇

府縣税營業税附加税　四五四、八九〇

鑛業税附加税編入額　五三一、八七七

雜種税附加税ヨリノ編入額　一、〇七四、三三八

整理輕減額　八、七八七、五六八

戸數割

戸數割及家屋税ノ附加税ノ現在額　一九四、九八二、三七四

整理輕減額　四一、八九七、八六六

現在額　一九、四二八、五五四

營業税附加税ヘ編入額　五三一、八七七

整理輕減額　一、五七五、八四九

一五三、〇八四、五〇八圓

（現在ノ戸數割及家屋税附加税ノ七割八分）

一七、三二〇、八二八圓

特別税（現在通）　一九、六六二、六九三圓

（八）道府縣税ト市町村税トヲ通シテ地方税ノ増減左ノ如シ

地租附加税ニ於ケル増　三二、九九四、九一五圓

七、四九六、三九二

二、二〇

一二、三二五、〇〇八圓

營業税附加税ニ於ケル増（賣藥營業税附加税ヲ含ム）　二八、七九八、四八六

家屋税及其ノ附加税ノ新設ニ依ル増　二二、四八九、一七六

所得税附加税ハ現在市町村ニ於テ法定制限率以下ノ課率ヲ以テ徵收セルモ府縣税附加税ニ移ス場合ニ於テハ制限率迄徵收スルモノトスルニ依ル増　七、九四四、〇四三

府縣税營業税及其ノ附加税ニ於ケル増　二、七四四、八一一

右合計増（鑛業營業税及其ノ附加税ヲ含ム）　九四、九七一、四三一

然レトモ他方ニ於テ

雜種税及其ノ附加税ニ於ケル減　四、九三六、八八九

戸數割家屋税及其ノ附加税ニ於テ府縣税及之ニ代フル家屋税ヲ廢止スルニ依ル減　四六、九八四、九六一

市町村ノ附加税ヲ輕減スルニ依ル減（將來設クル市町村戸數割ト差引シタル計算ヲ示ス）　四一、八九七、八六六

賣藥營業税附加税ヲ廢止スルニ依ル減　二二、四〇一

鑛業税及砂鑛區税附加税ヲ廢止スルニ依ル減　一、一二九、三一四

右合計減　九四、九七一、四三一

即チ地方税ノ總計ニ於テハ增減ナシ

參考

一　地租及營業税全部委讓ノ場合ニ於ケル地方税整理案綱領

二　右整理案ニ基ク計算

三　地租及營業税ヲ地方税トスル場合ニ於ケル課税方法竝國家ノ之ニ對スル監督方法

地租及營業税全部委讓ノ場合ニ於ケル地方税整理案綱領

甲　道府縣税

第一　道府縣ニ於テハ地租、家屋税及營業税ヲ中軸トシ之ニ配スルニ所得税附加税ヲ以テシ且適當ナル雜種税ヲ認ムルコト

第二　前項ノ方針ノ下ニ左ノ整理ヲ行フコト

(一)地租ハ賃貸價格ヲ標準トシテ課スルコトトシ從前道府縣ニ於テ賦課セル地租附加税額ニ相當スル程度ニ於テ徵收スルコト

(二)營業税ハ法令ヲ以テ其ノ課税方法等ヲ統一明定シ勞働者又ハ主トシテ細民ニ課スルカ如キ營業税ハ之ヲ廢止シ從前道府縣ニ於ケル國税營業税附加税賣藥營業税附加税府縣税營業(整理シタル税目ヲ除ク)竝營業的性質ノ税目ノ雜種税額ヲ限度トシテ之ヲ徵收セシムルコト

(三)鑛業税及砂鑛區税ノ附加税ヲ廢シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ營業税ヲ課スルコト

(四)從來ノ戸數割及之ニ代フル家屋税ヲ廢シ賃貸價格ヲ標準トシテ課スル定率税ノ家屋税ヲ新設スルコト

(五)勞働者又ハ主トシテ細民ニ課スルカ如キ雜種税ハ之ヲ廢止スル趣旨ヲ以テ其ノ税目ヲ限定シ尙雜種税中其ノ税質營業税ナルモノハ之ヲ營業税ニ組替フルコト

乙　市町村税

第一　市町村ニ於テハ府縣税タル地租、家屋税及營業税ノ附加税ヲ中軸トシ之ニ配スルニ獨立税タル戸數割ヲ以テシ該戸數割ノ税額ヲ地租家屋税及營業税ノ附加税額ト同額以下タラシメ且雜種税附加税及地方ノ事情ニ依ル特別税ヲ認ムルコト

第二　前項ノ方針ノ下ニ左ノ整理ヲ行フコト

(一)地租及營業税ノ附加税ハ現在ノ地租及營業税(賣藥營業税ヲ含ム)ノ委讓額ト其ノ市町村

一ノ附加税額ヲ合算シタル程度迄徴收スルコト

(二)鑛業税及砂鑛區税ノ附加税ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣税營業税ノ附加税ヲ現在國税タル鑛業税ノ委讓額ト其ノ市町村ノ附加税額ヲ合算シタル程度迄徴收スルコト

(三)新設シタル府縣税家屋税ノ附加税ヲ課スルコト

(四)從來ノ戸數割及家屋税ノ附加税ヲ廢シ戸數割ヲ市町村ノ獨立税トシ所得ヲ主タル課税標準ト爲シ現在ノ家屋税施行地ニモ施行スルコト

(五)所得税附加税ヲ道府縣ニ委讓スルコト

(六)府縣税營業税雜種税ノ整理税目ニ對スル附加税ハ當然消滅ノコト

(七)現在ノ地租、營業税及鑛業税ノ委讓竝新設家屋税附加税ノ賦課ニ依リ生シタル財源ハ所得税附加税ノ廢止ニ依リ生シタル財源ノ缺陷ト營業税、雜種税ノ整理ニ伴フ附加税ノ消滅ニ依ル財源ノ缺陷ヲ補塡シ其ノ殘額タケ新設スヘキ戸數割ヲ現在ノ戸數割及家屋税ノ附加税ヨリ低カラシムルコト

二　本整理案ニ基ク計算即左ノ如シ

道府縣ニ於テ失フ税額

戸數割廢止額	三九、二五一、一六八圓
家屋税廢止額	七、七三三、七九三圓
營業税整理額	一、四六一、六八四圓
雜種税整理額	二、一〇五、五二一圓
計	五〇、五五二、一六六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ道府縣ノ所得税附加税率引上ニ依ル增收額三五、五五九、三八二圓ヲ以テ之ヲ補充シ不足額一四、九九二、七八四圓ハ新設家屋税ノ賦課ニ依リ之ヲ補塡ス

右整理ノ結果道府縣税收入ノ狀況左ノ如シ

地組	七三、五六二、四九〇	
家屋税	一四、九九二、七八四	一一四、六五二、八〇九圓
營業税	二六、〇九七、五三五	
所得税附加税		三九、二三五、四一一圓
雜種税		
市町村税ニ於テ失フ税額		三二、三三七、八〇六圓

一　所得稅附加稅委讓額　二七、六一五、三三九圓

一　營業稅及雜種稅ノ附加稅ノ整理減收額　二、六五〇、一八七圓

計　三〇、二六五、五二六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ新設セル府縣家屋稅ノ附加稅七、四九六、三九二圓ヲ以テ之ヲ補充ス其殘額二二、七六九、一三四圓ヲ地租、營業稅及鑛業稅ノ委讓額ニ依リ補塡ス

右ノ結果ニ依ル市町村稅收入ノ狀況ヲ見ルニ

地租附加稅	三七、八二四、四三〇	七、四九六、三九二
家屋稅附加稅		
營業稅附加稅	二六、一八二、九六四	七一、五〇三、七八六圓
戶數割		一九四、九八二、三七四圓
雜種稅附加稅		一七、九一〇、二七七圓
特別稅		一九、六六二、六九三圓
夫役		一、二六六、四〇二圓

今此地租、家屋稅及營業稅ノ附加稅額ト戶數割トヲ同額ニ爲サムトセハ其ノ額各一三三、二四三、〇八〇圓ナリ故ニ地租及營業稅ノ附加稅ヲ更ニ六一、七三九、二一九四圓徵收シ其徵收額タケ戶數割ヲ輕減スルヲ要ス卽地租及營業稅ノ附加稅ハ之ヲ通算シ結局八四、五〇八、四二八圓ノ增徵ヲ要スルコトトナリ此增徵額ハ現在地租及營業稅（賣藥營業稅ヲ含ム）一三八、八〇二、三八六圓ノ六割八厘ニ當ル

右整理ノ結果市町村稅ノ收入狀況左ノ如シ

地租附加稅	七八、一一五、五五六	一三三、二四三、〇八〇圓
家屋稅附加稅	七、四九六、三九二	一三三、二四三、〇八〇圓（現在ノ戶數割及家屋稅附加稅ノ六割八分）
營業稅附加稅	四七、六三二、一三二	
戶數割		一七、九一〇、二七七圓
雜種稅附加稅		一九、六六二、六九三圓
特別稅		一、二六六、四〇二圓
夫役		

三　地租及營業稅ヲ地方稅トスル場合ニ於ケル課稅方法竝國家ノ之ニ對スル監督方法

地租及營業稅ヲ地方稅ニ移ス場合ニ於テ此ノ兩稅ノ課稅方法ヲ全然各地方ノ隨意ニ一任スヘキヤ又ハ國家ニ於テ相當ノ監督ヲ爲シ全國ノ統一ヲ圖ル必要アリヤハ單純ニ決スルヲ得スト雖之ヲ地方稅ニ委讓スルノ理由ニ鑑ミ大體ニ於テ各地方ノ事情ニ適應シタル課稅ヲ爲サシムルヲ可トスヘシ然レトモ若シ之ヲ全ク各地ノ自由ニ放任スルトキハ各地ノ土地及營業ニ對スル負擔ニ著シキ輕重ヲ生シ各地間ノ產業ノ消長ニ關スル所少ナカラサルヘシト認メラルルヲ以テ左記各項ノ要領ニ依リ大體ノ統一ヲ圖ルノ必要アリト認ム

一　兩稅共法律ヲ以テ其ノ組織及課稅方法等ヲ規定スルコト

二　前項ニ依リ規定スヘキ要領ハ大體左ノ通リ

(イ)地租ノ課稅標準ハ法定地價ヲ廢シテ賃貸價格ニ依ルコトトシ其ノ調査決定ニ付テハ現行所得稅法ニ準シタル調査委員會ノ制度ヲ設クルコト

(ロ)營業稅ハ大體國稅營業稅ノ通トシ其ノ課稅標準中ヨリ原則トシテ建物賃貸價格ヲ削除シ其ノ他各業體ニ應シ課稅標準ノ種目又ハ計算方法等ヲ修補スルコト但シ課稅最低限ハ之ヲ低下スルコト

三　兩稅ノ稅率ハ各地方全然同一ナラシムルヲ得スト雖現行地租及營業稅ハ相互權衡ヲ保持セサルモノト認メラルルヲ以テ之ヲ改正シ其ノ收益ヲ根據トシテ兩稅間ノ權衡ヲ保持シタル最高稅率ヲ法律ニテ規定スルコト而シテ若シ之ヲ超過シテ課稅スルノ必要アルトキハ中央政府ノ認可ヲ受ケシムルコト但シ此ノ場合ハ兩稅共其ノ最高稅率ニ達シタルトキニ限ル

四　家屋稅モ大體前各項ニ準スルコト

第四編　附帶希望決議

一　本整理案ハ諮問ノ趣旨ニ依リ現在ノ歳入ニ增減ヲ來ササルコトヲ目標トシテ作成シタルモノナルヲ以テ財源ノ關係上地租及營業稅ハ當分約半額ヲ國稅トシテ存置スルコトト爲シタルモ理想トシテハ其ノ全額ヲ地方稅ニ委讓スヘキモノナルカ故ニ軍備縮小ニ因リ生スル財源ヲ以テ此ノ兩稅ノ全部ヲ地方稅ニ委讓セムコトヲ望ム

二　間接國稅ニ關スル稅制整理ノ結果課稅ノ權衡上ヨリ新ニ飴、メリヤス、フェルト、化粧品、清涼飲料ニ對シ課稅ヲ爲シ約一千二百萬圓ノ歳入ヲ圖ルコトヲ計畫シタルモ若此ノ際他ニ適當ナル財源アルニ於テハ此等ノ比較的大ナラサル新稅ヲ創設スルハ稅制整理ノ大體ヨリ通觀シテ寧ロ避クヘキモノト認ムル而シテ既ニ稅制整理ノ稅源トシテ酒類ニ對シ或程度ノ增稅ヲ爲ス以上ハ之レトノ權衡上煙草ニ對シテモ若干値上ヲ爲シ之レヲ財源ト爲スヲ相當トスヘシ今參考トシテ調査スルニ煙草値上ニ因リ大正十年度ニ於ケル煙草ノ賣行高ヲ基本トシテ其ノ定價ノ平均二割程度ノ値上ヲ爲ストセハ相當消費減ヲ見込ミ約一千二百萬圓ノ歳入ヲ得ヘキカ故ニ此ノ財源ニ因リ叙上新稅ノ創設ヲ見合スヲ可ト認ムル尤モ專賣制度ニ關スル調査ハ本諮問案ノ範圍外ニ屬スルモ特ニ此ノ希望ヲ附加ス

35K95